

平成29年度
事業報告書



Meitoku
since1925

学校法人千葉明德学園

目 次

I 法人の概要	1
1. 法人の名称	1
2. 事業所の所在地	1
3. 設置する学校	1
4. 附帯事業	1
5. 姉妹法人	1
6. 学生・生徒・園児の数	1
7. 役員	2
8. 教職員の状況	2
9. 土地建物の状況	3
II 事業の概要	3
1. 学園全体の状況	3
2. 千葉明德短期大学	4
3. 千葉明德高等学校	6
4. 千葉明德中学校	10
5. 千葉明德短期大学附属幼稚園	12
6. 明德本八幡駅保育園	13
7. 明德浜野駅保育園	15
8. 明德やちまた子ども園	16
III 財務の概要	19
1. 過去5年間の消費収支の推移	19
2. 施設設備への投資額の推移	19
3. 借入金の推移	20

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人千葉明德学園
2. 事務所の所在地 千葉県千葉市中央区南生実町1 4 1 2 番地
3. 設置する学校
- (1) 千葉明德短期大学保育創造学科
- (2) 千葉明德中学校
- (3) 千葉明德高等学校 全日課程普通科
- (4) 千葉明德短期大学附属幼稚園
- (5) 明德やちまたこども園
4. 附帯事業
- (1) 明德本八幡駅保育園（第二種社会福祉事業）
- (2) 明德浜野駅保育園（第二種社会福祉事業）
5. 姉妹法人 社会福祉法人千葉明德会
明德土気保育園・明德そでの保育園を運営

6. 学生・生徒・園児の数

(平成29年5月1日現在)

部門	入学定員	収容定員	学生・生徒・園児数		
千葉明德短期大学	150名	300名	228名	1年	97名
				2年	131名
千葉明德高等学校	400名	1,200名	982名	1年	340名
				2年	293名
				3年	349名
千葉明德中学校	120名	360名	124名	1年	38名
				2年	45名
				3年	41名
千葉明德短期大学 附属幼稚園	(3歳児) 100名	310名	252名	3歳児	76名
	(4歳児) 105名			4歳児	83名
	(5歳児) 105名			5歳児	93名
明德本八幡駅保育園		45名	49名	0歳児	11名
				1歳児	20名
				2歳児	18名

部門	入学定員	収容定員	学生・生徒・園児数		
明德浜野駅保育園		36名	41名	0歳児	5名
				1歳児	9名
				2歳児	7名
				3歳児	7名
				4歳児	6名
				5歳児	7名
明德やちまた こども園		75名	63名	0歳児	1名
				1歳児	9名
				2歳児	7名
				3歳児	11名
				4歳児	21名
				5歳児	14名

7. 役員 (平成29年4月1日現在)

理事長 福中 儀明
 副理事長 鈴木 総美
 理事 金子 重紀 (千葉明德短期大学学長)
 理事 園部 茂 (千葉明德中学校・高等学校校長)
 理事 柴田 炤夫
 理事 南 金次 (内部監査室長)
 理事 高浦 芳一
 監事 荒木 由光
 監事 神子 信行

8. 教職員の状況 (専任教職員数及び平均年齢) (平成30年3月31日現在)

	人員数	平均年齢
短期大学教員	15名	46.3歳
高等学校教員	54名	45.1歳
中学校教員	12名	41.2歳
幼稚園教員	13名	34.3歳
本八幡駅保育園	17名	36.9歳
浜野駅保育園	9名	35.2歳
やちまたこども園	11名	36.1歳
事務職員	22名	44.0歳
合計	153名	39.8歳

(注) 短期大学学長、高等学校校長は、理事(役員)であることから前項の役員一覧に記載し、上表の数には含めていない。

9. 土地及び建物の状況

(1) 土地の状況 (平成30年3月31日現在)

(㎡)

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学 校・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校 地	0	13,005	67,975	4,550	2,871	88,401
その他の土地	472	0	0	0	0	472
合計	472	13,005	67,975	4,550	2,871	88,873

(2) 建物の状況 (平成30年3月31日現在)

(㎡)

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学 校・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校 舎	0	3,844	14,984	1,712	705	21,245
附 属 施 設	0	0	3,419	0	0	3,419
その他の建物	0	10	0	0	0	10
合計	0	3,854	18,403	1,712	705	24,674

II. 事業の概要

1. 学園全体の状況

平成29年度学園の財政の状況は、事業活動収入22億1,770万5千円に対し、事業活動支出21億4,356万2千円を計上し、基本金組入前当年度収支差額はプラス7,414万2千円を計上し、平成24年度から6期連続で収入超過を計上する事となった。(詳細は「Ⅲ財務の概要」参照) しかしながら、依然として学生・生徒・園児の募集活動は低迷を続け慢性的な資金不足、及び借入金に依存している状況は変わっていない。

各部門における状況は、短期大学においては、学生募集を最大の重点課題とし、カリキュラムの整備を基本方針として運営が行われた。平成29年度の学生募集の結果は、離職者等再就職訓練生19名を含めても116名の入学者(昨年度より18名増)となり、2年生89名を含め定員300名に対し205名、68%の定員充足率である。前年比増の募集結果ではあったが、保育養成校への志願者が減少する中で競合校との更なる差別化をはかり、次頁以降に記載されている学生募集、学生支援を実施し、平成31年度は確実な成果が必要である。

経営の中心である高等学校においては、「新しい進学校」という学校改革を更に進化させる方針の下に、大学入試改革を見据え教職員全体で様々な重点項目を掲げ取り組みを行った。結果として、教育活動における様々な前進を確証し、生徒募集に於いても目標を達成した。また、平成29年度は中学生全生徒と高校1年生に対しipadを活用したICTを活用した教育もスタートさせた。10月13日には、ICT活用の教員スキルアップの一環として、県内公立、私立中高を対象にICT公開授業を行った。進学実績については国公立大学の合格実績も含め全体的には十分な成果であったと言える。中でも、進学コースのHSクラスの合格実績が、教職員、下級生への励みや自信となった。

千葉明德中学校が開校して7年目となり、中高一体となった学校改革、重点目標を明確にし、様々な取り組みを進めた。その結果、生徒募集においては、開校以来、初めて、78名3クラスの入学者を迎える事となった。

幼稚園においては、平成30年4月に開園する1・2歳児用の「やまの幼稚園」園舎が完成した。園庭は、前方後円墳を利用した園児の遊び場として、草花や樹木が植えられた。又、園児達の給食用施設として短期大学別館1階を調理室として整備し、新たに2号・3号子どもを迎える為、万全の準備が行われた。一方、「森の幼稚園」では、創立50周年記念事業として、園庭に新たな大型遊具の設置、50周年記念誌の発行がされ、夏休みに、歴任教職員及び地域の方々をお招きし盛大にお披露目会が行われた。

保育部門においては、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園は、明德やちまたこども園は定員を超える園児数、又、ほぼ定員通りの園児数を確保し、各園の運営方針、保育・教育目標に基づき安定した状況でが順調に推移している。各園での地域根ざした細かな取り組みが着実に成果としてあらわれていると考える。

平成29年度、千葉明德学園は創立92年を迎えた。昨年に引き続き創立100周年記念事業として、サッカー元日本代表選手である「ラモス瑠偉選手」を迎え記念講演会を行った。11月22日当日は、1600名を超える来場者を迎え盛大に記念講演会が実施された。

2. 千葉明德短期大学

本年度は、平成28年度と同様に学生募集を最重要課題とし、カリキュラムの整備を基本的な方針として運営に取り組んできた。

(1) 学生募集

平成29年度の学生募集については、離職者等再就職訓練生（保育士養成コース）19名を含めても116名の入学者（昨年度より18名増、定員充足率77%）となった。平成28年度の学生募集活動の反省をもとに、オープンキャンパス、高校訪問等の中で、確実に本校の魅力を伝えていくことを目標に行った結果、オープンキャンパスへの参加者数最近5年間の中で最高となり、また、指定校推薦による入学者数も伸びている。入試方法についても、特待生試験（特待生としての資格を取得する試験、入試とは別）、保育体験入試を導入し、受験生の幅広い要望、個性にあった入試を受け入れられるようにした。保育養成校に対する志願者が減少傾向にある中で、一定の成果が出たものと判断しており、基本的な方針を維持しつつ、より確実に1人1人の受験生に本校の魅力を伝え、個々の受験生の希望が本学で実現できることを理解されるよう丁寧な募集活動に努めていくとの総括をした。

(2) 学生支援

①教育と保育実践の連携、

“総合保育創造組織”としての附属幼稚園、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園及び系列の明德土気保育園、明德そでの保育園は、本学学生の実習先であることはもちろん、ボランティア、有償研修（アルバイト）等、様々な形で学生の学びを深める機会を提供している。また、学生の就職先であるとの観点から本学内での就職説明会を行い（系列園への就職者数：平成28年度卒業生7名、平成29年度卒業生4名）、ともに学び続ける保育創造組織の仲間の育成についても連携を深めてきた。また、あそぼうカーの派遣、行事への参加等、保育についての具体的な連携を行ってきた。

②教育課程での取り組み

本学の学びの原点である「体験から学ぶ」「学び合う」を実現するとともに、個々の学生に対する支援の充実が本学の教育の中心である。そのために、平成27年度、将来的な Semester 制の導入を目指し、通年科目を半期科目に分割し、教科群を再編成する等のカリキュラム改革を行い、平成28年度入学生より適用・実施し、平成29年度は、その延長上にある。

その結果、前期に半期科目の成績が出たため、各学生の学習状況についての把握を行うことが可能となり、個別指導の充実を図ることができた。さらに、学生の出席状況について学期途中においても教員全体として把握し、個々の学生の状況に対する早期の対応をできるようにした。また、従前から実習指導、ゼミ、現代社会論等、学生と教員の関係を様々な教科で図ってきた。その結果、後述するように就職決定率は100%を達成することができた。

さらに、専門科目を学ぶ上での基礎としての教養科目の充実を図り、1年次に教養基礎演習、教養総合演習の取り組みを始め、学生の学ぶ意欲の向上を図った。

③教育課程外の取り組みの充実

教育課程外での取り組みとして、「保育臨床研修コース」(研修生制度)については、本年度は希望者がおらず、開講されなかった。土粘土等を携えて保育現場に遊びを届ける「明德あそぼうカー」の取り組みを行っているが、教員数1名の体制の中で、平成28年度と同様の実施園数で推移している。その他、公開講座「めいトーク」、「教員免許状更新講習」を本年度も継続して行った。

また、千葉市と千葉市内の3短大(千葉経済大学短期大学部、植草学園短期大学、本学)と連携事業(平成27年度からスタート)として、下記の講座を実施した。

ア. 幼稚園教諭免許状・保育士資格の併有促進特例措置に対応した特例講座
・保育士資格取得のための特例講座

イ. 「千葉市子育て支援員研修」の「基本研修」と「現任研修」の委託を受けて、研修を実施した。

ウ. 現場保育士のさらなる学びのためのサバティカル研修を実施した。

また、行き場のない児童の保護シェルターを運営するNPO法人「子どもセンター帆(ほ)希(まれ)」の事務局業務を引き続き受託した。(事務局は「こども臨床研究所」内に設置)

④まとめ

以上の取り組みを通して、本学の学びの原点である「体験から学ぶ」「学び合う」の実現を図り、教育内容の充実、本学の学びの魅力を深めてきた。このことは、一人一人の学生に対する丁寧な支援を実践することである。その成果として、就職決定率も100%の高率を維持していると考えられる。

平成29年度卒業生(47回生)資格・免許取得状況

平成30年3月31日現在

卒業者数	127人
幼稚園教諭二種免許状	105人
保育士資格	112人
免許・資格両者取得	104人

平成29年度卒業生(47回生)就職状況

平成30年3月31日現在

卒業者数	127人
就職希望者数	116人
就職決定者数	116人
就職決定率	100%

なお、社会人学生(訓練生16名を含む)19名のうち、家庭の事情等により就職を希望しなかった2名を除き、全て就職をしており、うち14名が正職員として就職している。

(就職先内訳)

就職先種別	人数	比率
幼稚園	10人	8.6%
認定こども園	12人	10.3%
保育所	59人	50.9%
福祉施設(保育所を除く)	22人	19.0%
認可外保育施設・学童保育	6人	5.2%
公務員	3人	2.6%
一般企業等	4人	3.4%

学生の就職先についての傾向は、上記の傾向が続いているが、その要因としては、募集数が保育所が幼稚園の約1.5倍であること、保育所の保育士不足が盛んに言われている中、学生の意識も保育所への就職意識が高いと考えられる。また、2年間の学びの中で、福祉施設への関心が学生の中で強くなる傾向があり、福祉施設の職員不足にも対応して増加傾向を示している。

3. 千葉明德高等学校

(はじめに)

平成29年度は、前年度までの学校改革第1ステージにおける進学実績等の成果の下に学校改革第2ステージをスタートさせた年度である。『新しい進学校』という改革目標をさらに進化させることと、2020年大学入試改革を見据え、教職員全体で取り組む重点項目に①使える英語力の育成、②プレゼンテーション力の育成、③ICTを活用した授業改革を掲げ、それぞれの取り組みを進めてきた。結果として平成29年度は、教育活動における様々な前進があり生徒募集にも十分な成果を出すことができた。

特に大学進学実績では、一貫コースや特進コースの生徒だけに止まらず、進学コース、アスリート進学コースからも多くの生徒が部活動との両立を図りながら自己の進路決定と直に向き合い、国公立や有名私大に合格を果たした。そして、生徒募集でも、募集目標を超えることが出来たこともさることながら、コース制14年目にして初めて特別進学コースが2クラスになるという結果となった。この点では、『新しい進学校』という学校スタイルをまた一歩着実に前進させることが出来た年であった。

(1) 教育活動への取り組み

- ①授業の理解度を確認し、大学受験学力につなげていくシステムとして29年度も朝学習（主要教科の小テスト）に取り組んだ。このテストで不合格となると放課後の補習や再テストがあるため、生徒はきちんと取り組んでいる。生徒の感想でも学習習慣の定着や学力の向上につながっていると回答している。
- ②長期休業前後の平常授業が行われていない期間を使って受験セミナーを全員参加で行った。（アスリートコースのみ夏期セミナー後期は大会のためなし。）特進コースは、年間で5週間のセミナーを行っている。
- ③新年度の初めなどを使い、特進では勉強合宿が行われた。（ちなみに30年度冒頭においては、希望者ではあるが一貫コースや進学コース HS クラスでも勉強合宿が行われた。）団体戦で受験に臨んでいく雰囲気作りの良いきっかけになっていると考えている。
- ④2020年入試改革を見据えて、特に英語の4技能への取り組みを進めた。語学研修プログラム（ブリティッシュヒルズ研修、校内英語集中ゼミ、セブ島での短期語学研修）を実施し、全校的に英語の習得への機運が非常に高まってきた。なお、英検の取得状況であるが、準1級が7名。2級が26名となっている。受験者も回を重ねる毎に多くなっており、関心の高まりを感じている。
- ⑤生徒指導では全体としては大きな問題は発生していないが、制服の着こなしや ICT モラルに関する問題（電車の中のスマホの使い方など）が散見される。学年を中心に対応している。
- ⑥転退学者が例年よりやや多くなった。理由としては病気、登校拒否、対人不適応など多岐にわたるが、学校カウンセラーとの連携を図りながら、個々の生徒の変化をきめ細かく見ていく必要がある。また、素早い対応で、避けられた事例も有り、教職員の中での学習も重要である。
- ⑦平成29年度は中学生全生徒と、高校1年生に対して iPad の導入を行い、県内でも先進的な ICT 活用の教育がスタートさせた。この取り組みを行うためにインターネット回線の開設、学内サーバの設置、校内 Wi-Fi の構築、教室毎のアクセスポイントの設置、各教室へのプロジェクターの設置（一部教室は電子黒板機能付き）、スクリーンの設置などを計画的に進めてきた。しかし、ICT 活用には、教員のスキルアップをどのように行うかが最大の課題であり、継続的に職員研修を行っている。その一環として10月13日に県内公立・私立中高を対象に ICT 公開授業を行った。保護者や学内の教職員対象ではなく、ICT 関係の企業や学習塾、県内外の私学関係者が参加し、本校の教育の一端を見て頂けたのは本校の教師にとって大きな成果を得ることになった。次年度も開催していきたい。

(2) 進路指導について

※以下が平成29年度の卒業生347名の進路実績である。

進路実績	男子	女子	合計	全体比率
国公立四年制大学	4	4	8	2.3%
私立四年制大学	125	100	225	64.8%
短期大学	1	10	11	3.1%
各種専門学校	24	21	45	12.9%
就職(公務員)	1	1	2	0.5%
就職(企業)	6	5	11	3.1%
その他(浪人・留学等)	38	7	45	12.9%
総合計	199	148	347	100%

〈 主要大学の合格実績 〉(4月10日段階)

東京外語大学1名	東京学芸大学1名	千葉大学3名	熊本大学1名
琉球大学1名	早稲田大学3名	上智大学4名	東京理科大学3名
明治大学11名	青山学院大学1名	立教大学8名	中央大学3名
法政大学8名	日本大学34名	東洋大学33名	駒澤大学16名
専修大学7名	立命館大学5名	関西大学2名	東京農業大学12名
國學院大學6名	成蹊大学4名	成城大学6名	東邦大学6名
日本女子大学1名	武蔵大学1名	順天堂大学2名	明治学院大学1名
武蔵野音大1名	武蔵野大学5名	文教大学2名	獨協大学5名
千葉工業大学101名	神田外語大学12名	立正大学20名	大東文化大学14名
国士舘大学16名	帝京大学10名(内:医1名)		

今年度の進学実績は昨年度のような中堅大学の代表である日東駒専の合計が三桁に乗るような成果には届かなかったが、国公立大学の合格実績も含め、全体としては十分な成果を出せた。背景としては本校の基本的な学習指導が成果を確実に上げていることと、生徒の中にも大学進学に対しての意欲が十分に作り出せていることなどが上げられる。

今年度の評価すべき点は、特に進学コースのHSクラスの努力が成果を出し、国公立大学への合格者も輩出できたことは教職員の励みや自信にもなり、次年度に続く大きな橋渡しとなった。大学進学率では3/4の生徒が大学進学を果たせるところまで到達しており、大学受験に真摯に向き合う生徒達を全力で支えるサポート体制も一層充実してきている。次年度に向けては、自習室をさらに充実させ、自学自習をサポートする体制もさらに整えていきたい。また、今後は進学先にこだわった指導が重要となってきている。

(3) 部活動（課外活動）と特別活動について

※アスリート進学コースを中心とする部活動の主な成績は以下の通りである。

チアリーディング部	関東チアリーディング選手権大会 JAPANCUP 2017 全日本選手権 高等学校選手権	D1 優勝・D2 準優勝 D1 準優勝 D2 優勝
硬式野球部	春季千葉県大会 夏季千葉県大会	ベスト 8 ベスト 16
サッカー部男子	全国高校サッカー選手権大会 千葉県大会	ベスト 26
サッカー部女子	千葉県高等学校女子サッカー選手権 千葉県高等学校総合体育大会	県優勝 県優勝
剣道部	千葉県高等学校総合体育大会県予選	(男子団体) ベスト 16 (女子団体) 3 位
女子柔道部	関東大会出場 全国高等学校総合体育大会出場	(団体・個人) (個人)
水泳部	千葉県高等学校総合体育大会	(男子団体) (女子団体) 関東大会出場
バドミントン部	関東大会千葉県予選 (団体) 千葉県高等学校総合体育大会 (団体)	4 位 4 位

以上が、平成 29 年度の主な部活動の戦績である。部活動には全校生徒の約 9 割の生徒が日々部活動に励んでいる。朝学習・受験セミナーといった本校独自の受験学力を定着させる教育システムは、ここ数年例外なく全校で取り組んできた。特に他校との運動系コースとの比較では、本校のアスリート進学コースにおける『部活動もやる中で、学習にもしっかり取り組む』という明確な姿勢が本校の特徴にもなりつつある。この点については、他校との差別化として今後もさらに明確に打ち出していきたい。

(4) その他、特徴的な活動について

①第 1 学年総合学習：キャリア甲子園への取り組み (NIKKEI 主催・ビジネスコンテスト) 昨年度の 1 年生から取り組んでいる NIKKEI のキャリア甲子園参加は今年で 2 年目を迎えた。2017 年度の参加状況は、全国から 3,014 名、723 チームの高校生が参加しているが、本校は「総合的な学習の時間」の取り組みとして参加している。キャリア甲子園は、企業から出されている課題に対して、高校生が各企業に提案をするというイベントであるが、この取り組みを通して「個人の主体性」や「協働してテーマに取り組む力の育成」、あるいは「新しい考えを創造していく力の育成」(中教審で出された未来を生きる子供たちに必要な力)を育てることができると考えており継続して行うことで成果を出していきたい。

②学校行事への取り組み

●体育祭

6 月 15 日 (県民の日) に実施した。多くの高校の体育祭は、競技会形式になっている学校が多い中で、本校では今年度も生徒の委員会を中心に一日の企画を練り上

げていった。学年縦割りで、応援団も組織され、学内のあちこちでの練習風景が期待を高め、そしていよいよ当日を迎えた。学年毎の団体演技では、3年生は男女共に浴衣を着て、明德伝統の『民謡』を披露し、リレー種目等ではアスリート進学コースの生徒達を中心に運動能力の高さが発揮され、グラウンドは熱気とエネルギーに包まれた。そして、全てのプログラムが終了したとき、全校生徒1000人が円陣を作り、肩を組んで大声で校歌を歌い始めた。全校生徒と教職員そして保護者も含めて、全校が何とも言えない一体感に包まれた瞬間であった。そんな中で、生徒達はまた明日からの学校生活への大きな活力を吸収してくれたことを確信した。

●文化祭（明高祭）

6月から準備を始め9月に実施された。昨年から中高の一体感を出すことを目的に中高同日開催となり、三日間に亘るプログラムで実施された。学園前駅からのコンコースには、高校実行委員会が作成した入場門が完成し、オープニング会場の体育館には中学生が作成したスタンドグラスが飾られた。1日目のオープニングでは、中高合同のコーラス部・吹奏楽部が演奏、書道部のパフォーマンス、チアリーディング部の演技等が披露され、中高の一体感を醸し出していった。3日目は、一般公開となり大勢の外来者で賑わった。生徒達は、こうした経験を通して自分達の学校への帰属意識を高めている。

4. 千葉明德中学校

〈はじめに〉

平成29年度千葉明德中学校・中高一貫コースは、平成23年4月の開校から7年目を迎えた。昨年度3月に待望の1期生が卒業し、その進学実績等の成果の下に一貫コース2巡目の7期生を迎えて新年度をスタートさせた。中高一体となった『新しい進学校』という学校改革目標・重点目標を明確にし、それぞれの取り組みを進めてきた。結果として平成29年度は、教育活動における様々な前進があり、生徒募集でも78名3クラスという成果を出すことができた。

特に一貫コースとしての大学進学実績では、昨年ほどの結果は出せなかったものの、一人ひとりの生徒の6年間の伸びしろから見ると、多くの生徒が大きく伸びて巣立っていったと判断している。また、一貫コースの特徴でもある探究心やプレゼンテーション力の育成という面でも、大きく成長してくれたことを確信している。

また、一貫コースについては、6年間の過ぎ、2巡目7年目という中で、教育課程・カリキュラムの見直しも視野に入れながら、1年間の取り組みを進めてきた。

（1）教育活動への取り組み

※建学の精神、新学習指導要領を踏まえて、生徒一人ひとりの豊かな成長を目指し、教育目標である「行動する哲人」を具現化するための教育活動に取り組んできた。

- ①新学習指導要領や高大接続改革に関するセミナーや、eポートフォリオに関するセミナーに参加し、多くの情報収集に努め、その結果、高大接続改革を見据えて、中学校・高等学校のカリキュラム見直しを教務部が中心となり年間を通して検討し、次年度より実施していけるよう準備を進めてきた。
- ②外部のアクティブ・ラーニング、ICTの活用に関する研修会や授業実践報告会等への参加を積極的に奨励した。習得した情報、技術、知識を中学校職員会議や教

科会での報告を通じて共有した。その結果、校内での研修も活発になり、教員間で相互の授業参観等を行なうなどスキルアップを図れた。また、保護者への授業公開とアンケート調査を行なうことで問題点の点検、改善に努めた。

(2) 募集活動と成果について

①学校説明会の工夫

従来の説明会に加え、首都圏模試の実施会場として貸与し、来校した保護者を対象に学校説明会を実施した。本校を知るきっかけになり、興味をもっていただき、学校選択の枠の拡大に結びつき、出願者数・入学者数に大きく好影響を及ぼした。

②ルーブリック評価型入試の導入

思考力型入試として実施している『適性検査型入試』に加え、新たに表現力型入試として『ルーブリック評価型入試』を導入した。結果的にこの入試を実施したことが本校のアドミッションポリシーを明確にすることにもつながり、予想を超える受験者があった。これらの募集形態も含め、受験者数336名（昨年比175%）入学者78名（昨年比205%）を確保することができ、開校以来待望の3クラス編成を実現することができた。

(3) 今年度、新たに取り組み等とその成果について

※生徒一人一台のiPad一斉導入

教員は1年前からの準備期間を経て、満を持して生徒たちにiPadを導入した。最初は混乱を予想していたが、大きな混乱もなく推移した。

①授業の質の転換

iPadを用いた教育活動の実践として、あらゆる配付物を紙からデジタル化し、iPadでの共有とした。その結果、配付時間の短縮やファイルの整理が当然になり、合理的な授業展開が進められ、授業中の討論やプレゼンテーションの時間を確保出来るようになってきている。要は、iPadの導入で明らかに授業の質の転換が可能になってきている。

②総合学習での活用

総合学習や様々な行事においても、有効に使っている。1・2年生の『土と生命の学習』では、動画や画像での記録が容易になり、情報共有を可能にし、学習の幅が広がってきている。さらに、中3の課題研究論文では、一人一台のiPadを自由に使えるという条件が、生徒のICT機器活用能力を高め、プレゼンテーションの中身を豊かなものになっている。

③行事での活用

中3の修学旅行では班別自由行動のミッションとして「明日香村を世界遺産にしよう」というCM制作を課した。生徒達は、その夜の交流会でiPadを駆使し見事なプレゼンテーションを発表した。

④生徒・保護者との情報共有

生徒、保護者との連絡ツールとして、教育プラットフォーム（「classi」や「FE」等のコミュニケーションツール）を導入した。それにより、学年通信や諸連絡、年間行事計画などの配付物を保護者にダイレクトに送れることで確実に連絡ができるようになり、保護者も配付物の保管がしやすくなった。

※以上、iPadの導入は、これまでの教育現場でのスタンダードを大きく変化させる可能性を秘めている。

5. 千葉明德短期大学附属幼稚園

(1) 運営方針に対する成果について

29年度は、「保育内容の充実」と「創立50周年の記念事業」を課題に2つの方針を柱として具体化して取り組んできた。

- ① 明德の保育を大切にし、さらに質を高める取り組みを継続しながら、積極的に外に伝えていく。
- ② 50年の歴史を作ってきた歴代の教職員や、南生実の地域の皆様と園児とでお祝いをする。

【月別在籍数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍数	252	252	252	253	250	250	250	250	249	249	249	249

【学年別在籍数】

年 齢	年少児	年中児	年長児
在 籍 数	76	81	92

【職員構成】

職種	園長	副園長	教諭	パート(常) 教 諭	パート(非) 教 諭	嘱 託 事 務	パート 事 務	看護師
人数	1	1	11	3	13	1	1	1

(3月時：教諭1名育休、嘱託事務1名産休中)

「保育の充実」については、子どもたちが自分で考えて行動する活動を取り組み、日頃の活動の延長として行事に取り組み、保育者は毎日の子どもの様子から自ら遊びたくなるような環境を考え整えるなどしてきた。また、園内研修に青木久子先生を講師として、学期毎に環境と実践とを振り返りながらすすめてきた。保護者参加の園 joy 活動での保護者の感想などから、支持が得られていることを実感する。その結果が30年度の入園者増加につながったと思われる。

「創立50周年の記念事業」については、夏休み中、園庭に新たに総合遊具を設置し、歴代の教職員と地域の皆様に招待して、お披露目会をした。また、皆様に原稿を依頼して50年の小冊子を作成した。

(2) 教育目標と成果について

本園の保育理念「豊かな自然に囲まれた環境の中で、遊びや生活を通じて子どもたちが自らの意志と力で学び、育つ」に基づく保育実践は、豊かな自然の中で仲間たちと過ごす日々の体験の中で着実に育っている。季節による自然の変化に触れ、畑作りや作物を育てる中で自然の成り立ちを学び、好きな遊びを続けて満足し、自ら目標を持って取り組んだり、友だちと一緒に取り組んだりする中で達成感を味わい、次への意欲と期待感を持って生き生きと生活している。そこには確かな生きる力が培われていると思われる。

る。本園の保育理念や、実際の保育の姿を外に発信することを重点課題として、子育て講座や園舎・園庭開放事業、また、運動会や夕涼み会などの子育て支援活動等に取り組み、未就園児の皆様に来園していただき、園児の様子や環境を身近に感じていただく活動をしてきた。特に園舎・園庭開放事業は、毎回30名以上の参加で好評であった。

(3) 募集活動と成果について

昨年は、通園範囲が近隣地域に限られることから、例年の園庭開放や行事への地域参加に加えて、保育開放や2歳児保育を新たに実施してきた。また、在園の保護者の口コミの情報が一番の入園の決め手となることでは、日々の保育の様子を保護者に伝えることが重要になると考えた。生き生きと遊ぶ子どもの姿を知らせ本園の魅力を保護者に伝わるように、ホームページや他のサイトを利用して発信することに取り組んだ。しかし、園児数の大幅な増加には繋がらなかった。更に、ホームページやサイトはいつでも気軽に閲覧することができるが、保護者が意識して活用していかないと伝わらないことから、他の方法も考えていく必要もあると思われる。

(4) 新たに実施した取り組みと成果について

29年度は、子育て支援の一環として「2歳児保育」を4月から開始した。途中月からの参加もあり家庭内で過ごしてきた親子の子育て支援のニーズに応えられたと思われる。また、ほとんどの児童が園に慣れ親しんで幼稚園に入園したのも成果であった。また、近くに広い遊び場がない小さいお子様とご家庭を対象にほぼ毎週火曜日は「園庭開放」を実施した。他に、短大の職員との連携で入園を考えている2、3歳児のお子様の家庭を対象に、多目的ホールと園庭を利用した「めいとくらぶ」を実施した。預かり保育は、朝は7時半から受け入れ、帰りは18時半までの時間で定員40名に拡大して実施し、仕事をしながら子育てをしている母親やご家庭の要望に応えることができた。30年度こども園移行に向けての対応では、保護者説明会は、2回実施して保護者向けのアンケート調査を実施し、質問等にも答えていき、準備をすすめてきた。しかし、準備期間が十分でない中での移行のため、落ち着くまで来年度も時間がかかると思われる。

6. 明德本八幡駅保育園

(1) 保育園運営方針に対する成果について

①園児数の推移は、転園して空きが出ると入園してくるという状態であり、最終的には51人の園児数となった。

【月別在籍数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍	47	47	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51

【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	合計
定数	9	18	18	45
在籍	12	21	18	51

【職員構成表/3月】

職種	園長	主任	副主任	主任看護師	保育士	栄養士
人数	1	1	1	1	13(2)	1
職種	パート(常) 調理師	パート(非) 調理員	パート(常) 保育士	パート(非) 保育士	保育補助員	
人数	1	3	4	6	2	

※ () 内は育児休暇中職員含

②運営面における、補助金交付対象となる特別保育事業、一時預かり事業、体調不良児対応型保育事業を例年通り実施。特別保育事業と保育園見学を一体化した形をとるようになったこともあり、マタニティ時に見学をした方が出産を終え、子どもを連れて参加しているといったお付き合いの長い、いい関係性が見られてきている。

(2) 保育・教育目標と成果について

- ① 1・2歳児混合クラスにおける小グループ制保育の定着と共に、子どもの年齢以上の会話力、表現力の豊かさを持つ子どもの成長に、保護者も共感している姿や声が聞かれるようになってきている。
- ② 子ども達の“自ら歩く”ことに基本を置くことを継続してきた。足型をとり、年間通した土踏まずの形成を図式化し、掲示をするだけでなく、今年度は、時期ごとに取り組んでいた遊びを写真で掲示した見える化が、それまで消極的だった保護者に関心を示してもらえ、“自ら歩く”にさらに効果を生み出すこととなった。
- ③ 園児の体格が大きくなってきており、テーブルと椅子のバランスが悪く、姿勢にも影響することを考え、開園以来使用してきたテーブル・椅子に加え、身長の高い子どもへの椅子やテーブルを購入した。肘とテーブルへのバランスもよくなり、食事時の姿勢が良くなったこと、背もたれのない椅子にしたことから、背筋を使う姿勢を保とうとする子どもの姿が見られているため、今後の子どもの発達にも目を向けていきたい。

(3) 募集活動と成果について

- ① 地域子育て支援「ポップスマイル」週2回の開催は定着し、そこで行っている保育園見学者は両親で参加する家庭が多く、関心の高さを感じられた。園の方針を説明する中で、子どもにとってそれがどういう成長に繋がるのかという点では納得した表情で聞き入って下さる状況が見られていた。
- ② 保育園見学者のアンケートの保育園入園の決め手になる点での設問には、保育士の質・保育内容と返答が多く、これまで、環境、駅からの近さを決め手と答えていたことを保育者の対応の良さ、子を尊重している点と周りとの関係性を大事にしている保育に好感が持てたという感想も多く、高評価が得られたといえる。

【保育園見学者数、合計 () 内は入園者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	7	9	6	16	0	15	19	27	16	2	2	4	123(7)

(4) 新たに実施した取り組みとその成果について

3歳未満児の子ども同士の交流は、保育者との安定した関係があるからこそ成しえることができたといえる。また、2歳児で卒園をする子ども達の“ほかの保育園も楽しい”と感じている姿は、保護者の転園しなければならないという不安解消にもなった。

- ①保育園交流……これまで年齢の大きな子どもとの交流を行ってきたが、今年度は、e-こども園との交流では、遊びに行かせてもらって交流をするという、保育士にとっても学びの機会になった。また、どろんこ保育園との交流では、幼児クラスが発表会で演じた劇を見せに来てくれるなど、2歳児の卒園後の方向性に繋がるような取り組みを実施することができた。

(5) その他

- ①開園から今まで職員で行ってきたエアコンのフィルター清掃だが、今年度は専門業者による分解洗浄を実施した。
- ②災害に備え、全職員分のヘルメットを用意した。今後の訓練にも使用し、避難時の指示者が怪我すること無く、子どもを安全に避難させることができるようにしていく。

7. 明德浜野駅保育園

(1) 保育園の運営方針に対する成果について

平成28年度末に受け入れた0歳児が、年度当初1歳児への移行時点で歩行ができなかったこととアレルギーがあることから、その児の発達を大切に考え、移行を3ヶ月遅らせた。そのため4月時点での0歳児の受け入れを5人とし、3:1の保育士定数での運営を行なった。運営費としては若干の減額となったが、5・7・11月に新入園児を受け入れることで年度末には在籍42名、充足率116%となり、順調に運営をすることができた。

【月別在籍数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍	40	41	41	42	42	42	42	42	42	42	42	42

【年齢別在籍数（3月）】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍	6	9	7	7	6	7

【職員構成】

職種	園長	主任保育士	保育士	主任栄養士	看護師	調理師	調理員
人数	1	1	13 (1)	1	1	1	1

※（ ）内は育児休暇中職員

(2) 保育理念及び保育目標と成果について

開園8年目を迎え職員の定着率も良いことから、保育や行事等の流れはスムーズに行われている。反面、パターン化したり緊張感の甘さを感じたりする面が多少あることか

ら「初心に帰ろう」をモットーに保育・職員間の連携について見直しをした。
また、改訂された保育指針を読み合わせし、平成30年度に向けて改めて保育目標や指導計画について職員の意思統一を図ってきた。その中で、保育を取り巻く環境の大切さについて考え、言葉や文章の発信は受け取り側の感じ方で意味合いが変わってしまい、誤解や不信感の原因となることを再確認し、本園の保育の基本理念に沿った保育を展開することができた。

(3) 募集活動と成果について

直接的な園児募集ができない認可園なので、見学者や入園希望の相談には丁寧な対応を心がけることにより、第一希望での入園申請へと繋がっている。

次年度の0・1歳児の入園希望者も多く、第一希望での申請が多かったが、本園保護者の第二子出産数が多く、途中入園を希望していることから、当初の入園数を最小限に留めたことにより入園できず他園に入園が決定した方が多かったようである。

(4) 新たに行なった取り組み等とその成果について

①療育相談支援・専門機関との連携

発達の気になる児童の保護者から相談を受け、療育センターに繋ぐケースと保護者自身が児童相談所の門を潜り、民間療育を選択するケースがあり、どちらも積極的に専門機関に足を運んでいることから、担任・園長が窓口となり療育とそれに伴う保護者支援を行なってきた。

②保育参観週間の設定

兄弟での在籍家庭が多く、年齢毎の参観日にすると休みを数日取らなければならないという保護者の意見から、前期の保育参観については一週間の保育参観期間を設け、兄弟同日に参加することができるよう配慮した。そうすることで保護者の負担も軽減され参加しやすくなったと好評である。後期の保育参観及び懇談会については、年齢ならでの成長を見てもらい、進級・入学等の話をしていくという園側の思いから、現状どおり年齢毎の実施としたが、意図を明確に伝えることで保護者の理解を得ている。

(5) その他

設備の修理として保育室内の壁紙及び危険防止用壁紙の貼り替えと専門業者によるエアコンの清掃を行なったことにより、安心して快適に過ごすことのできる保育環境となった。他にも劣化等による修繕が必要な箇所があるので、次年度以降、計画的に着手していく予定である。

8. 明德やちまたこども園

(1) 運営方針に関する成果について

①園児数の動向

平成27年度 28名 / 平成28年度 52名 / 平成29年度 72名

園児数の移行については、29年度は下記の通りである。0歳児が4月から6月まで1名であったが、7月、8月に5名の入園があり、70名台となった。又、1月に幼児の入園が1名あったため、最終的には72名となった。しかし、創立3年目を経て定員

の75名には3名足りない総数であった。

入園前に子育て支援センターに通い、園の様子を見ていることで、園の理解が深まっている姿も見られるので、これからも子育て支援や、地域との繋がりを大切にする経営を行っていききたい。

【月別在籍数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在籍	65	63	64	68	71	71	71	71	71	72	72	72

【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍	6	9	9	12	22	14

【職員構成/3月】

職種	園長	主幹保育 教諭	保育教諭 (常勤)	保育教諭 (嘱託)	保育教諭 (パート)	栄養士	調理師	看護師
人数	1	2	7	5	7	1	1	1

②運営面においては補助金交付対象となる項目を出来る限り獲得した。子育て支援センター、一時預かりを実施した事により、園の様子を対外的に知ってもらえる機会として有効であった。次年度は、定員数を超える入園児を迎えることによって経営の黒字化を心掛けていきたい。

(2) 保育目標と成果について

明德学園の教育理念を具体化するためには、各学年クラスで日々の保育内容にねらい等として指導し易い様、より具体的な物にしていく必要があると思われる。その内容は以下の通りである。

①「子ども一人ひとりの存在が創造的である」と捉えている。日々の保育実践の中で、子どもの「発達」「育ち」は個別性を有し、一人ひとり同じではないと捉え、「発達を支える営み」としての保育の在り方と、一人ひとりの生活や体験を通して、その年齢らしい育ちを保障していくことと考える。

また、八街の四季の移ろいや、風土文化の中で、地域の人々との関わりを大切にしながら、人として育つことを大切にしていきたい。

(3) 募集活動と成果について

園内で地域の方々と協力し季節の特定産物等の売店などを作る「やちまたマルシェ」を行ったり、園のポスターを各地域に貼り出してもらったりと、地域の方々に「明德やちまたこども園」を知っていただくような働きかけを色々行ってきた。

ホームページの更新期間を細目にする事で、子どもの生活の様子へのアクセスは一年間で約7万となった。

(4) 保育活動における重点施策と新たな取り組みについて

①人的体制の整備・強化

なるべく八街市内に在中の保育者を探していきたいと考えている。全体人数には問

題は無いが、人員は朝と夕が手薄になっているので、適正化を計っていききたい。

②年長児保育の確立

1年を通して、個の興味関心をしっかりと受け止めるとともに、友だちと関わって生活を作り上げていく事について、保育者は力を注いできた。14名の子ども達は園生活のリーダーとしての力を発揮し、日々の生活や行事等に力いっぱい取り組んでいた。年長児としての育ちの方向性は着実に進んだと考えている。

③地域子育て支援センター―事業受注と一時預かり事業の実施

地域子育て支援センターは年内のべ1,910組(4,107名)の利用があった。相談員や、やってきた母児と共に子育ての悩みなどを話し合う姿がみられ、来園する事を親子共々楽しみにしているのが伺われる。また、在園児と遊びや行動で関わる事で園の保育について理解を深めてもらっている。

今後、2号、3号の親への支援は、各クラスの保育の中で担当と園長、主幹保育教諭、支援センターと相談しながら進めていきたい。

④1号認定こどもの一時預かり保育の実施

保護者の就労や所用による事由で、教育時間以外や長期休業期間中に保護者の申請を受けて実施し、また利用料については、市内の基準に準じた費用を毎月の保育料と同時に徴収し、概ね計画のとおり対応する事ができた。

⑤一般型一時預かり保育の実施

乳幼児の利用者増加に向けて、地域への情報発信を積極的に行い、一時預かりの定期利用への対応は出来たが、不定期利用者への対応については不十分であった為、次年度への課題を残す事となった。

⑥延長保育事業の実施

保護者の勤務形態や、やむを得ない理由により受託した。大きな課題を残す事無く延長保育を実施する事が出来たが、3号(0歳, 1歳, 2歳)の長時間保育希望が、色々な意味で子どもへの負担が多いのではないかと感じた。次年度、利用時間については保護者との連携を密にし、事業の実施をして行く。

(5) 保育環境の整備に関する重点施策

①園舎の緊急補修工事Ⅱ期目については平成29年度中に実施することができた。

- ア. 調理室横の星形トップライトカバー交換工事
- イ. 出窓上部からの雨漏り補修工事
- ウ. 絵本の部屋、事務室の空調Ⅱ期工事

②保育環境改善を目的として園庭の整備を順次進めていく

平成29年度は木製の砦を購入した、平成30年度も同様の砦を購入し遊具の更なる充実を計画する。

Ⅲ. 財務の概要

1. 過去5年間の消費収支の推移

(単位：千円)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
消費 収入	学生生徒納付金	1,040,209	941,221	971,065	941,520	943,937
	手数料	20,890	24,714	27,200	26,886	31,914
	寄付金	7,402	108,593	13,845	9,657	12,256
	補助金	818,775	801,492	871,832	888,001	991,698
	資産運用収入	7,200	6,679	7,124	6,538	411
	資産売却収入	0	0	0	0	49
	事業収入	10,508	11,747	46,374	68,582	122,747
	雑収入	176,101	132,333	116,325	173,355	114,689
	帰属収入合計	2,081,087	2,026,782	2,053,767	2,114,541	2,217,705
基本金組入額	△ 205,703	△ 417,460	△ 213,271	△ 180,603	△ 86,038	
消費収入合計	1,875,383	1,609,322	1,840,496	1,933,938	2,131,667	
消費 支出	人件費	1,535,933	1,418,862	1,455,929	1,555,635	1,527,050
	教育研究費	329,395	327,714	344,302	345,318	370,800
	管理経費	165,766	155,625	176,209	167,136	226,377
	借入金等利息	27,678	26,243	24,139	21,363	19,112
	資産処分差額	1,149	1,260	1	2,279	221
	徴収不能額	0	2,172	0	275	0
	消費支出合計	2,059,922	1,931,879	2,000,582	2,092,003	2,143,562
消費収支差額	△ 184,539	△ 322,556	△ 160,086	△ 158,064	△ 11,895	
帰属収支差額	21,164	94,903	53,184	22,538	74,142	

(注) ①金額は、すべての項目について千円未満は切り捨てて記載しており、合計額が一致しない場合もある。以下の表においても同じ。

②平成27年度会計基準の変更により、旧消費収支計算書が、事業活動収支計算書と変更になったが、経年比較の為、従来の消費収支計算書の表示形式とした。

平成29年度決算の基本金組入前当年度収支差額は(旧：帰属収支差額)は、事業活動収入(旧：帰属収入)22億1,770万5千円に対し、事業活動支出(旧：消費支出)は、21億4,356万2千円となり、7,414万2千円の収入超過となった。

また、基本金組入後の事業活動収入は、21億3,166万7千円となり、事業活動支出との差額である消費収支差額は、1,189万5千円の支出超過となった。

基本金組入前当年度収支差額(旧：帰属収支差額)は、平成24年度から6期連続の収入超過となった。

2. 施設・設備への投資額の推移

(単位：千円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
施設関係支出	65,978	117,028	44,827	93,773	230,437
設備関係支出	42,066	13,517	15,204	12,511	24,401
合計	108,045	130,545	60,031	106,284	254,838

平成29年度の主な施設関係支出は、土地支出では、学園南西側に位置する山林294㎡をこども園園庭用地として購入し、又、その整地費用についても土地の取得費とした。建物支出において、平成30年4月に開園する幼稚園型認定こども園の園舎建設費用、厨房設備、電気設備、設計費用等を計上した。その他、短期大学においては、別館南西壁面爆裂補修工事、本館・別館屋上防水工事、高等学校では、ICT設備整備計画の第3期工事、1号館、2号館他トイレの改修工事を行い78箇所の洋式便器の設置、113箇所のウオシュレットの設置、物理室・化学室の実験台の改修及び交換を行った。構築物支出においては、短期大学井戸に滅菌の為の紫外線照射設備を設置、学生用駐輪場建設工事、幼稚園園庭の大型遊具の設置を行い教育環境の改善整備を行った。設備関係支出は、教育研究用機器備品として、短期大学学生用ロッカーの入替、高等学校でも、学習机、椅子、ロッカーの設置を実施し教育環境の整備を行った。

3. 借入金の推移

(単位：千円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
長期借入金	678,431	588,200	503,101	458,427	510,160
短期借入金	474,973	510,231	485,099	450,174	400,972
合計	1,153,405	1,098,431	988,200	908,601	911,132

(注) 各年度とも3月31日現在の残高を記載している。

長期借入金は、前期末残高4億5,842万7千円に対し、新規借入1億3,567万円、期中返済金8,313万9千円を計上し、期末残高5億1,016万円となり。前年比5,173万3千円の増加となった。短期借入金の期中運転資金は、借入6億7,000万円に対して、返済7億2,000万円であり、5,000万円の減少となった。その結果、返済期限が1年以内の長期借入金の減少を含めて、長期及び短期の借金残高合計は、前年比253万1千円増加し、9億1,113万2千円となった。

